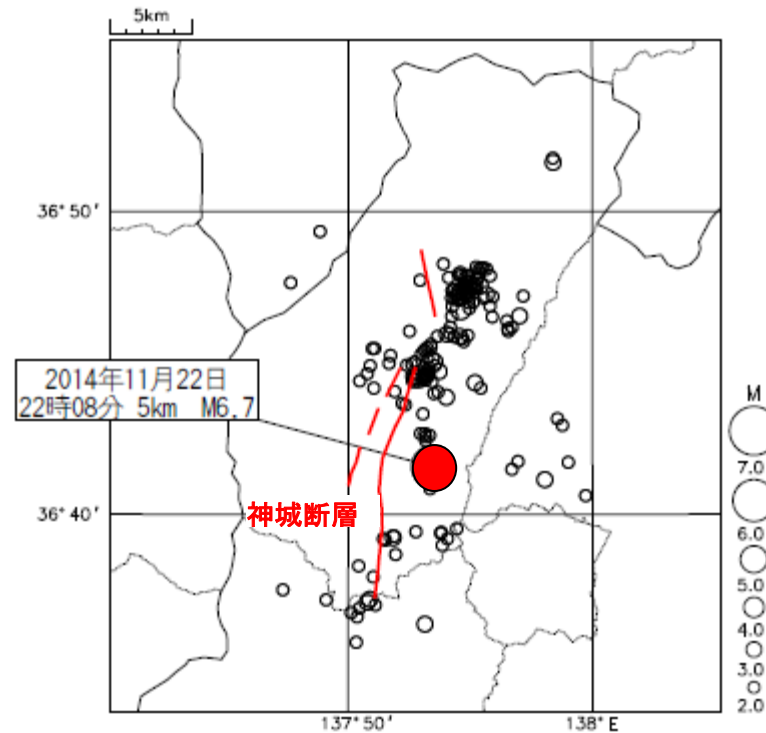
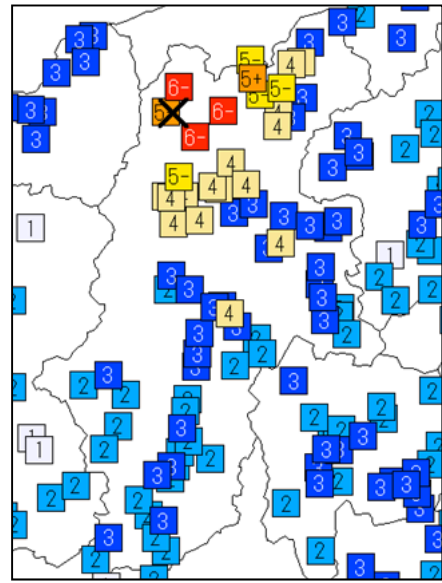


# 長野県神城断層地震災害について

## 1 地震の概要

地震の発生	平成26年11月22日 22時08分
地震の規模・震源の深さ	マグニチュード6.7 深さ5キロメートル
県内の主な震度分布	震度6弱 長野市、小川村、小谷村 震度5強 信濃町、白馬村
地震の評価	震源域付近には糸魚川-静岡構造線活断層系の一部である神城断層が存在している。今回の地震は、神城断層の一部の活動による可能性が高いが、詳細は今後の調査観測結果等を踏まえさらに検討を行う必要がある(H26.11.23 地震調査委員会)。
余震の発生	姫川沿いに小谷村から白馬村の南北約20キロメートルの余震域で発生している。(最大の余震 11月22日 22時37分 小谷村(震度5弱))

震度分布図並びに本震及び余震の震央分布図(11/22~12/1)(気象台提供)



## 2 県の主な対応について

### (1) 県本部の動き

日時	対応内容
11/22 22:08	長野県地震災害対策本部、北安曇・長野地方部設置
11/22 22:08	長野市、小川村、小谷村(震度6弱以上)、白馬村に情報連絡員を派遣
11/22~	白馬村、小谷村、小川村に災害救助法適用
11/23~	白馬村、小谷村の要請により、県備蓄物資(アルファ米、ブルーシート、室内テントなど)、弁当、ストーブ等を提供

### (2) 応援部隊の動き

区分	派遣要請	活動内容	活動場所	撤収等
陸上自衛隊	11/23 02:25	断水地域での給水活動	白馬村	11/23 20:00
緊急消防援助隊	11/22 23:05	被災地域での捜索救助活動等	白馬村	11/23 14:15
県内消防	11/22 22:44	被災地域での捜索救助活動等	白馬村	11/23 15:45
警察災害派遣隊	11/22 23:05	被災地域での捜索救助活動等	白馬村・小谷村	11/23 14:45

## 3 地震災害の主な状況

### 資料1-(8)-②



消防による捜索救助活動



線路への土砂流入(白馬大池~千国駅間)



自衛隊による給水活動



家屋倒壊(白馬村堀之内)

位置図



○対応状況

- 9月27日
- 13:20 警戒対策本部設置(長野県)
  - 13:35 災害警備本部設置(長野県警察)
  - 13:55 長野県警察本部機動隊出動
  - 14:10 御嶽山噴火災害対策本部設置(長野県)
  - 14:30 災害医療本部設置
  - 14:31 自衛隊に災害派遣要請
  - 15:26 DMAT出動要請
  - 16:40 関係省庁連絡会議開催(国)
  - 20:30 緊急消防援助隊 出動要請
  - 22:10 県消防応援活動調整本部設置
- 9月28日
- 13:00 非常災害対策本部設置(国)
  - 15:30 御嶽噴火に係る政府調査団(内閣副大臣)
  - 22:00 非常災害現地対策本部設置(国)
- 9月29日
- 14:28 DMAT撤収
- 10月16日
- 14:28 捜索・救助活動終了
  - 18:15 緊急消防援助隊引揚要請、自衛隊・警察に撤収要請
- 10月17日
- 13:30 非常災害現地対策本部廃止(国)

○噴火概要

御嶽山では、9月27日11時52分頃に噴火が発生しました。今回の噴火の規模は1979年の噴火と同程度と考えられます。火砕流が南西方向に3キロメートル以上流下し、気象レーダーの観測によると噴煙は東に流れ、その高度は火口上約7,000メートルと推定されます。その後の上空からの調査によると、噴火は剣ヶ峰山頂の南西側で北西から南東にのびる火口列から発生したとみられ、大きな噴石が火口列から1キロメートルの範囲に飛散しているのが確認されました。火砕流は発生しましたが、地獄谷付近で樹木等が焦げたような痕跡は認められませんでした。また、噴出した火山灰には新鮮なマグマに由来する物質は確認されておらず、今回の噴火は水蒸気噴火であったと考えられます。御嶽山で噴火が発生したのは2007年以来です。  
(火山噴火予知連絡会拡大幹事会見解から引用)

○御嶽山 噴火災害(平成26年10月23日13:00現在)  
噴火日時 平成26年9月27日(土) 11:52分頃  
被害状況  
人的被害:死亡57名、重傷27名、軽傷32名  
行方不明:6名

要救助者は火口から1km圏内に集中している。特に剣ヶ峰頂上付近、ハ丁ダルミ付近に集中している状況。

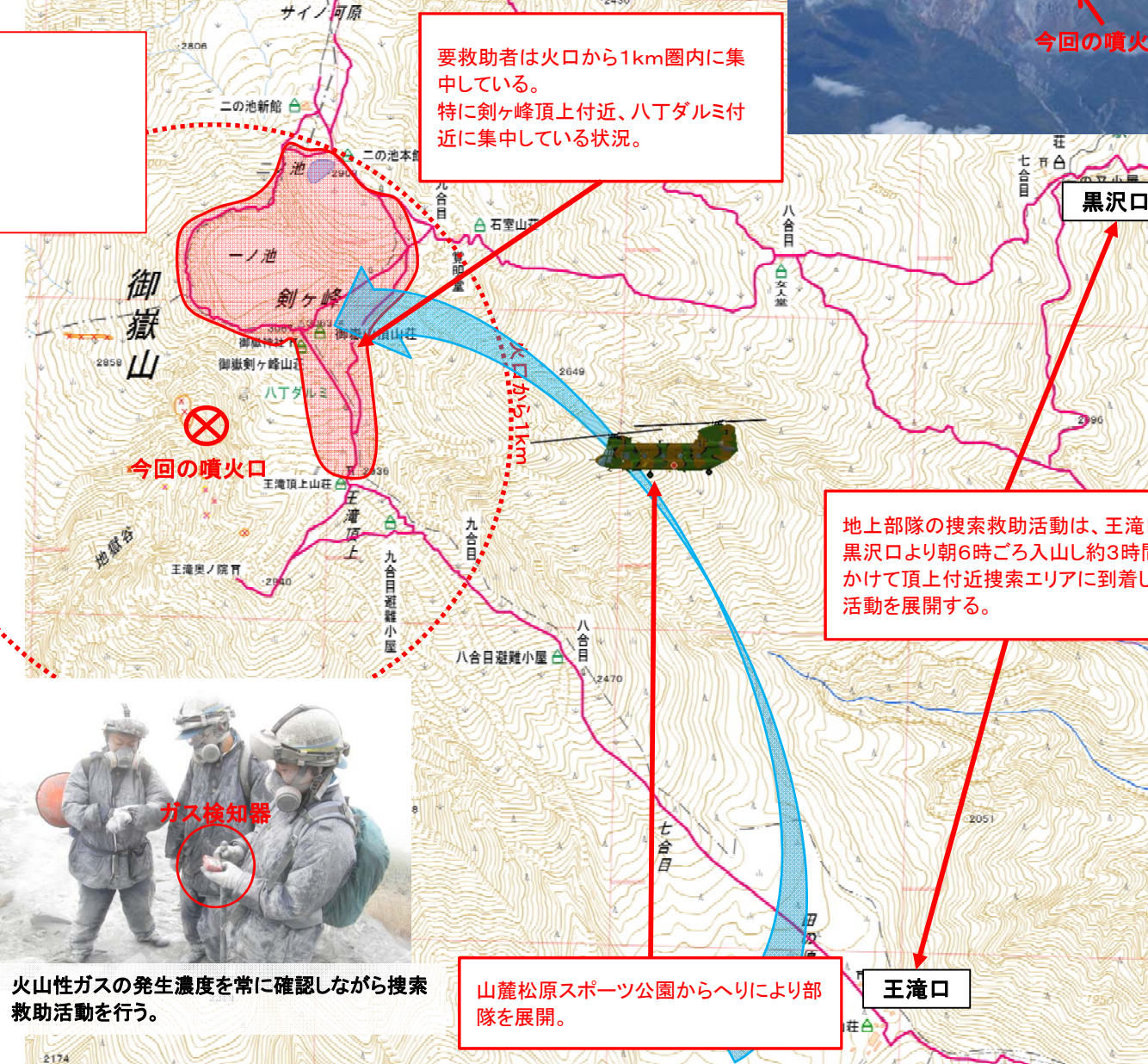
地上部隊の捜索救助活動は、王滝口、黒沢口より朝6時ごろ入山し約3時間かけて頂上付近捜索エリアに到着し活動を展開する。

山麓松原スポーツ公園からヘリにより部隊を展開。

標高3000m付近の捜索救助活動のためヘリを使用し活動部隊を展開。



山岳地域の急斜面での捜索救助活動のため、ヘリ収容が困難な場合は、隊員による人力搬送も行う。



火山性ガスの発生濃度を常に確認しながら捜索救助活動を行う。



堆積した火山灰は泥濘し、足場の悪い中、金属探知機、探査棒を使用して要救助者の捜索を実施。

